

平成24年度の成果

プログラムの目的のため、3科目を行い、1科目を休講とした。

(1) 国際研究集会企画演習

大学院生が中心となり小規模の国際研究集会を企画・立案・実行した。

1. International Workshop on “Quark-gluon Structure of the Nucleon”

(平成24年11月8日) 12名参加

(2) 国際研究実地演習

大学院生を外国の主要な研究機関の現場等へ派遣し、国際的な環境の中で研究を発展させる。あるいは外国での学会に参加し研究発表するのを支援する。

派遣は10名(延数)で、派遣先内訳(延数)、アメリカ3名、フランス2名、スイス1名、ドイツ1名、韓国1名、インド2名である。

(3) 研究企画演習

今年度は休講とした。

(4) 英語理学講義

外国人講師6名を招聘し、以下のタイトルで英語による講義を行った。

1. Performing magnetic resonance in very low field: Advantages and challenges (Christopher P. Bidinosti氏、University of Winnipeg)
2. The Quark Model and Particle Resonances: What Have We Learned Recently? (Kenneth H. Hicks 氏、Ohio University)
3. Modeling Earth from atomic to global scale (Renata M. Wentzcovitch 氏、University of Minnesota)
4. Antiquarks in the proton studied by Drell-Yan process (Paul E. Reimer氏、Argonne National Laboratory)
5. 21st century Rutherford experiment: Scattering to Tunneling (A. Navin氏、CNRS)
6. Berry Phase effect on Bloch Electrons in Electromagnetic fields (Qian Niu氏、University of Texas-Austin)

(5) 上記の3科目に加えて、FGIP:Foreign Graduate Students Invitation Program を行った。

外国の博士課程の大学院生を招聘して、日本人大学院生との共同研究を支援した。

招聘は合計4名で、ドイツから2名、イギリスから1名、スペインから1名・スペインから1名、・スペインから1名、である。

当プログラムは平成21年11月に学内評価を受け、高い評価(評価A)を得たため、平成22~24年度に大学による支援が継続している。

ホームページを update した。